

プロジェクト毎の全体スキーム

市民出資を活用した太陽光市民共同発電所事業について

公共施設や事業所等の屋根を借りた、太陽光市民共同発電(2004年～)

2004年度の環境と経済の好循環のまちモデル事業(まほろば事業)、2005～2006年度のメガワットソーラー共同利用モデル事業にて、合計162kWの太陽電池を、飯田市を始めとした公共施設および民間事業所の屋根を20年間借りて設置している。発電した電気は、電力会社から購入する単価とほぼ同等の価格で、各施設が購入している。

まほろば事業は、市民出資を用いた資金調達による初めての太陽光発電事業であり、2004年以後、順調に稼働して出資者への配当を行なっている。



鼎みつば保育園

余剰電力買取制度に対応し、個人住宅向けの「おひさま0円システム」(2009年～)

上記の屋根借りの仕組みを個人宅にも応用し、9年間は定額の電気料をいただいて太陽光の電気を提供し、10年目にはパネルをお客様に譲渡する仕組みの事業。余剰電力買取制度にしたがって、自家消費できない余った電気はお客様が電力会社に高い単価で販売することができる。そのため、省エネするほど売電が増えて負担が減り、お客様の省エネルギーを強く促すことになっている。



0円システム 設置宅

全量固定買取制度に対応した、大規模な屋根借り太陽光発電（メガさんぼプロジェクト）
 (2012年～)

2012年7月からの全量固定価格買取を活用し、南信州を中心とした公共施設や民間事業の大きな屋根をお借りして、15～50kW程度の大規模な太陽電池を合計で1MW程度設置する。売電収入は発電事業者である弊社に入るが、屋根の提供施設には屋根借り料をお支払いする。

